

2020年1月5日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「わたしはA(アルファ)であり、Ω(オメガ)である」

聖書：ヨハネの黙示録1：1～8

この2020年はどういう年になるのか。長期となった安倍政権下では、政治改革の結果、政党では党首に、政府では首相に権限が集中することが異常に増している。自民党内でさえ活発な議論が失われ、政府内でも官僚による忖度がはびこる。さらに、日本国憲法をないがしろにし、集団的自衛権の一部行使に道を開き、戦争ができる国にした。今、米国とイランとの関係が非常に悪化し、今にも軍事行動に移す懸念さえある。今年、東京オリンピックが開催され、お祭り騒ぎがしばらく続くが、その陰で封印された福島原発事故後の汚染の問題、子どもたちに起きている甲状腺ガンの多発の問題など、本来、国を挙げて真実を公表し、問題解決に取り組んでいかなければならないが、そうはなっていない。この国の向かう状況を案じてならない。

年初めは、黙示録からキリストの言葉を見る。「わたしはAであり、Ωである」とは、キリストは、初めであり、終りであるということ、全ての初めであり、全ての終りであるということ。

黙示録の時代は、ローマ皇帝ドミティアヌスが支配者として君臨していた。彼は皇帝礼拝を強制し、抵抗する者は捕らえられ、拷問を受け、殺された。キリスト者を迫害した最初の皇帝として有名なのがネロだが、そのネロよりも神であることを強要し、皇帝礼拝を指示した。

その信教の自由が奪われ弾圧された中で、この黙示録は書かれた。しかし、この書には失望感は見られない。むしろ力強い励ましの言葉、確信に満ちた言葉で綴られている。何故か？それは、キリストは、死んでいるのでも、不在なのでもない。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもない。キリストは、教会の中に存在し復活のキリストからのメッセージが語られている。今や、パトモス島のヨハネから神の言葉が語られていく。アジア州にある七つの教会へ。ヨハネが捕らえられたと聞いて、教会はどれ程恐ろしく、虚しく、悲しく、失望の中にあつたことか。アジア州にある教会は、キリストが死んで存在しないかのように沈黙していたことだろう。しかし、このヨハネからの手紙を受けて励まされていく。教会は、キリストが存在するからこそ、国家権力の暴力的支配下の中にあつても、今もなお末広がる。当然ながら今の時代もまた、国家権力の暴力的行為に教会はどう向き合っているかが問われる。

教会は、キリストは死んでいるのでも、不在なのでもない。また、隠れているのでも、沈黙しているのでもない。キリストは、教会の中に存在していることを表していく事でのみ、教会としてあり続けるのである。そして、私たちの中にもキリストは共におられる。あなたの初めから終わりまで。この2020年も、初めから終わりまでキリストは共におられる。(神谷)